

# 月の沙漠と加藤まささを

加藤まささを、大正中期より昭和前期にかけて、一世を風びしたみずみずしい抒情画の数々を発表し、一時代をきつくとともに、大正12年に発表された『月の沙漠』は、御宿海岸がその舞台となりました。



このことを永遠に記念するため、昭和44年7月6日美しい御宿の砂丘に、『月の沙漠記念像』が建てられ、この時以来、月の沙漠の発祥地御宿の名は全国に知られるようになりました。

以来、月の沙漠記念像は、多くの人々に愛され、月の沙漠の御宿として、町発展の基盤となり、大正ロマンをほうふつさせる文化遺産として、また観光御宿の知名度の向上と飛躍の原動力となりました。

月の沙漠は、童謡の名曲として、子供から大人まで、いつの時代にも愛され、歌いつかれてきました。平成元年、NHKが行った「ふるさとの歌100選」で千葉県で第1位、全国でも第5位に選ばれ、今もなお、人々の心を魅了しています。

加藤まささは、同年代に活躍した竹久夢二、落合虹児、高島華智らと並び抒情画家であり、抒情詩人でもあります。詩あり、童謡あり、小説・歌謡曲などその創作は多岐を極め、数多くの作品を残しています。

## 加藤まささを略年譜

- 1897年 (明治30年) 4月、静岡県藤枝市に生まれる。本名正男。父は湘和中学の教師。
- 1916年 (大正5年) 東京、芝の高輪中学から立教大学英文科に進学。
- 1920年 (大正9年) 5月、童謡画集『カネリヤの墓』(岩波書店)を出版。
- 1921年 (大正10年) 立教大学を卒業。童謡画集『合教の招懸』(内田老鶴圃)を出版。
- 1923年 (大正12年) 『少女俱樂部』3月号に『月の沙漠』を発表。7月、童謡画集『人形の墓』を出版。この頃より『少女界』『少女俱樂部』『少女画報』などの口絵や挿画、また詩や小説などで活躍。
- 1926年 (大正15年) 7月、小説集『遠い藪』を出版。11月、『まささを抒情詩集』を出版。
- 1927年 (昭和2年) 1月、小説集『愛の哀しみ』を出版。この頃からよく西條八十の詩集の挿画を描く。
- 1929年 (昭和4年) 1月、『抒情小曲集』、9月、小説集『消えゆく虹』を出版。
- 1935年 (昭和10年) 10月、『名作挿画全集』第5巻(平凡社)に『消えゆく虹』の挿画、抒情詩と挿画が掲載される。
- 1936年 (昭和11年) 3月、『名作挿画全集』第8巻(平凡社)に、抒情詩と挿画が掲載される。
- 1949年 (昭和24年) 11月、講談社の絵本『ソチリツ姫』を出版。その後同シリーズの絵本多数を描く。主な作品に『カネリヤ旅行記』『おやゆびたん』『クリスマス・キャロル』。
- 1969年 (昭和44年) 7月、限定版の詩集『月の沙漠』(今野豊房)を出版。同7月、『月の沙漠』の詩碑と記念像が、この詩の発想をえた地、千葉県御宿に建てられる。
- 1974年 (昭和49年) 千葉県岩和田小学校の校歌を作詞、作曲。
- 1976年 (昭和51年) 千葉県御宿に移り住む。
- 1977年 (昭和52年) 11月1日、死去(80歳)

# 月の沙漠

加藤まささを

月の沙漠を、はるばると旅の駱駝がゆきました。さきの鞍には王子様、あとの鞍にはお姫様。乗った二人は、おそろいの白い上着を着てました。金と銀との敷置いて、二つならんでゆきました。金の鞍には銀の装、銀の鞍には金の装。一つの装は、それぞれ紐で結んであります。砂丘を越えてゆきました、黙って、越えてゆきました。

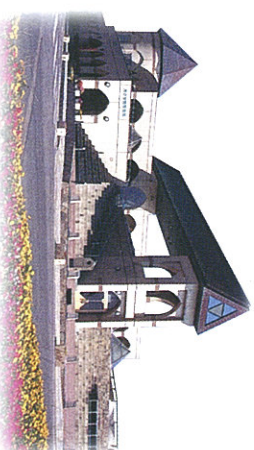


月の沙漠記念像と月の沙漠記念館



## 月の沙漠記念館

〒299-5104 千葉県興野郡御宿町六軒田505-1  
TEL:0470-68-6389 FAX:0470-68-5655  
開館時間●午前9時～午後4時30分(休曜日休館。水曜日か祝日のときは翌日)  
入館料●大人400円・高大生・65歳以上300円・小中生200円  
交通機関●JR外房線御宿駅下車徒歩7分/駐車場●専用駐車場あり/大型バス専用駐車場もあり



TUKINOSABAKU MEMORIAL MUSEUM

# 月の沙漠記念館



歴史とロマンに出会える街…

## 御宿町

ONNUKU